

## 1. 2022 年度報告

### (1) 入試関連 (Waseda Vision 150 核心戦略1 関連)

ー2023 年度を見据えた各学部・研究科における入試制度改革の実施状況ー

全国・世界から多様で資質の高い生徒を受け入れるために引き続き入試改革に取り組みました。

- ① 一般入試・帰国生入試における Web 出願システムを改良しました。
- ② 対面での学院説明会を 3 回実施、教員主導のイベントではなく、在校生や留学生も積極的に協力することで、学院生活を身近に感じていただけるようにしました。来校がかなわない受験生の方に向けて、コンテンツはオンラインでも公開し、世界中の方が、効率よく学院の特色や入試情報を得られるようにしました。
- ③ コロナ禍で中断していた、対面での帰国生向けの学院説明会や入寮相談会を実施しました。親元を離れての、様々なバックグラウンドをもった生徒との共同生活の雰囲気も感じていただくことができました。
- ④ 「入学決定者の集い」をコロナ禍以前とは異なる新たな形式で再開し、教員からの模擬講義の他、生徒によるミニコンサートや校歌歌唱指導を行いました。事後アンケートでは、大多数の参加者から、本庄学院への期待と勉強する意欲が増したとの回答を得ており、入学前の不安を払しょくできたものと考えています。

### (2) 教育関連 (Waseda Vision 150 核心戦略2、3、4 関連)

ーグローバルリーダー育成にむけた、各学術院・学院・学校における取り組み状況ー

2022 年度からの新学習指導要領実施に際し、ソフト・ハード両面で更に教育効果の高い授業の展開と、高大連携による基盤教育の充実を図りました。また、地域貢献・企業連携・研修活動・各種コンテスト参加など多様なプログラムにおいて実績を残し、本庄学院教育の多様性と可能性を広げました。

- ① 新カリキュラムの開始  
2022 年度からの新学習指導要領に則した新カリキュラムを開始、時間割等も整備しました。コロナ禍中、教育のオンライン展開などで積み重ねた経験とリソースは、さらに工夫され、授業展開に活かされました。
- ② 卒業論文指導の強化  
第 2 学年から取りかかる長い探求活動の中で、卒論指導とともにライティング、プレゼン教育に関しても注力しました。卒論報告会を開催し、2 年生にとっては執筆を進める上での大きな指針に、1 年生にとっては今後の卒業論文におけるテーマ設定や構想のまとめ方などの参考となりました。今後、さらに多角的な課題設定も期待されます。なお、卒論報告会には、慶應義塾湘南藤沢高等部の代表生徒たちも対面で参加しました。
- ③ ミスマッチのない学部進学とキャリアデザイン等進路指導  
学部との教育活動の連携や情報交換を密にし、生徒がそれぞれの学部・学科への理解をより深いもののできるよう工夫しました。本庄学院から各学部に進んだ卒業生による対面式でのパネルディスカッション形式の学部説明会も開催し、すべての学部の情報を学生の視点から伝えることができました。第一線で活躍中の社会人等を交えてのキャリアデザイン講座により、学部で何を学ぶか・どんな未来を描くかをイメージできるよう、進路指導の充実を図りました。さらに、アントレプレナーシップセンターとの連携により、イノベーションを生み出す人材の育成にも重点的に取り組みました。また、国際部の協力を得て、年数回留学説明会を実施しました。以上のイベントを通し、多様な視点から自分の将来を考え、ミスマッチのない学部選択につながることを期待しています。
- ④ 日本医科大学への推薦進学  
2021 年度に日本医科大学への学校推薦制度を導入しました。同大学千駄木校舎での説明会・模擬講義・キャンパスツアー等を行うとともに、現役医師によるキャリアデザイン講座も実施し、医学の道を志すうえで心構

え等の指導を行いました。

⑤ 地域連携プログラムの充実

地元自治体との連携プログラム、小学校との交流事業（総合的学習の支援）、「本庄早稲田の杜ミュージアム」でのワークショップ支援、ほんじょう FM での番組企画・出演等を継続的に実践しました。「地域創生アイデア創出プログラム」では、本庄市長をはじめとした市関係者も多数参加協力し、地域の強みを活かした多様な街づくりプランが生まれ、発表会も行いました。

上越新幹線が開業 40 周年を迎えた 2022 年、JR 東日本との連携による記念事業「ほわフェスタ」を本庄早稲田駅にて開催しました。企画・運営・出演の多くを本庄学院生が手掛け、後日、JR 東日本高崎支社長から参加メンバーに感謝状が贈られました。

⑥ 早稲田大学アントレプレナーシップセンターとの連携促進

起業家精神を涵養し、イノベーションを生み出す人材を育成するためのプログラムを多数展開しました。具体的には、「自分の可能性に気づく エフェクチュエーションワークショップ」、「地域創生アイデア創出プログラム」、「スタンフォード d.school 講師によるデザイン思考ワークショップ」、「WASEDA-EDGE Demo Day」、「グローバルアントレプレナーを目指す人への英語ピッチトレーニング」、「東京大学アントレ教育シンポジウム」、「Sweden Innovation Day」等に、選抜された本庄学院生が参加しました。「WASEDA-EDGE Demo Day」では、ビジネスの中心地・都内大手町において、高校生が考える新たなビジネスアイデアを発表し、多くの若手起業家の方々との交流機会もありました。

⑦ 企業等連携プロジェクトの推進

SDGs に関連した衣食住を中心テーマとした新たなプロジェクトを展開し、その多くは教室外を学習フィールドとして行われました。

ファーストリテイリング、UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）との連携による“届けよう、服のチカラ”プロジェクトでは、校内の他、本庄市役所や市内の小学校でも子供服の回収を行いました。最終的に 6525 着が集まり、世界中の難民の子供たちに届けられました。

JA 埼玉ひびきの、早稲田大学ボランティアセンター（WAVOC）との連携による農業プロジェクトでは、廃竹林や規格外野菜の活用といった地域課題の解決に向けて取り組みました。

ニュージーランドの政府機関 Education New Zealand との連携による Biz Venture 2002 では、原宿に出店した NZ の人気ショップ Cookie Time のマーケティング戦略を学び、同店での新商品の提案コンテストが、NZ 大使館にて駐日大使夫妻ご出席のもと開催されました。

（3）研究関連（Waseda Vision 150 核心戦略 7、9 関連）

－研究の国際展開のための戦略策定に向けた取り組み状況－

本学院の専任教員、非常勤講師等による研究論文や調査報告を掲載した「研究紀要」を年 1 回刊行していません。

（4）国際関連（Waseda Vision 150 核心戦略 8 関連）

－派遣留学、留学受入促進に向けた環境整備への取り組み状況等－

本庄学院にて 3 名の長期留学生を受け入れました。海外校との交流は、コロナ禍で一旦オンライン化されましたが、徐々に対面形式を再開しており、ニュージーランド短期留学プログラムも新設しました。

① 2021～2022 年度にかけて、第 1 種留学（休学を伴う留学）で 2 名、第 2 種留学（休学を伴わない留学）で 1 名が留学し、復学しました。行き先は、第 1 種留学がフランスとアメリカ合衆国、第 2 種留学がシン

ガポールでした。

- ② ドイツ、モンゴル、台湾からの長期留学生を受け入れ、それぞれの言語レベルと興味関心に応じて、所属クラスの通常授業および他学年・他クラスの授業を組み合わせた個別の時間割を作成して学習支援を行いました。コロナ禍が残る中でも、部活動や学校行事の他、地域の国際理解を深める企画や、日本文化を知るためのフィールドワークに積極的に参加し、充実した留学生生活を過ごすことができました。また、在校生にとっても、複数の長期留学生と接するインパクトは大きく、双方に好影響が見られました。
- ③ 大学進学後の留学を視野に入れている生徒、保護者向けには、国際部・留学センターとの共催による留学説明会を、新入生向けには、国際交流の良さを伝えるためのミニシンポジウム「国際交流へのいざない」を、オンラインにて開催しました。
- ④ ニュージーランドの政府機関 Education New Zealand (ENZ) ならびに早稲田大学国際部との連携、Air New Zealand の協力により、ニュージーランド短期留学「キア・オラプログラム」を開始しました。2023年3月には29名の本庄学院生が2地域 (Palmerston North、Hawke's Bay) の10校に分かれて、通常の授業の他に、英語レッスン、課外活動、小旅行、交流会、ホームステイ等を通じて学び、充実した2週間の海外プログラムを経験しました。
- ⑤ コロナ禍でも留学や国際交流の意義を伝え、モチベーションを維持してもらうために、以下のとおり様々なオンライン企画を実施し、多くの生徒が参加しました。
  - ・ 韓国セロナム高校との学術交流シンポジウム (オンライン) を開催しました。合同で6つのグループを作り、SDGsの各テーマについて、日韓の比較と問題解決についての提言を目指し、5か月間の共同研究を行いました。12月21日には最終目標であった国際フォーラムをZOOMで開催しました。
  - ・ 7月に韓国 Hana Academy Seoul が主催する Hana International Symposium2022 に参加しました。
  - ・ オーストラリアの高校との共同研究を行い、11月に開催された国際高校生科学シンポジウム International Collaborative Research Fair2023 で共同研究発表を行いました。
  - ・ 姉妹校である Singapore National Junior College (NJC) と文理両面での共同研究を行いました。
  - ・ タイ、シンガポール、フィリピン、韓国、台湾の6校、国内3校で、国際シンポジウム Asia Academic and Cultural Sessions (本学院主催) を1月に開催しました。
- ⑥ 姉妹校であるタイの Mahidol Wittayanosorn School との対面での交流を2月に再開しました。同時に開催された Thailand International Science Fair2023 に参加しました。

(5) その他

－ (1) ～ (4) に該当しない、各学術院・学院・学校独自の戦略・プロジェクト等 －

## 2. 2023 年度計画

### (1) 入試関連 (Waseda Vision 150 核心戦略 1 関連)

－2024 年度を見据えた各学部・研究科における入試制度改革の実施計画－

全国・世界から多様で資質の高い生徒を受け入れるために、引き続き入試改革と教育環境の充実に取り組みます。学校説明会や相談会は対面を基本としつつ、オンラインも活用し、地方や海外からも様々な情報が容易に得られるようにします。その際、教員主導とせず、在校生や留学生も積極的に協力することで、高校生活を身近に感じられるよう配慮します。また、早苗寮（男子寮）、梓寮（女子寮）の魅力作りを進めるとともに、親元を離れた様々なバックグラウンドをもった生徒との共同生活の良さと雰囲気を感じていただけるよう PR 方法も工夫していきます。

### (2) 教育関連 (Waseda Vision 150 核心戦略 2、3、4 関連)

－グローバルリーダー育成にむけた、各学術院・学院・学校における取り組み計画－

2022 年度からの新学習指導要領・新カリキュラムの実施に伴い、引き続きソフト・ハード両面で教育効果の高い授業展開、メソッドの開発を進めます。多様で未来的なプログラムを展開し、資質の高い生徒の能力や知的好奇心をさらに広げ、学部教育にシームレスに接続できるようにします。また、高大連携による基盤教育の他、アントレプレナーシップ、SDGs、データサイエンス関連の教育プログラムも重点的に推進していきます。

ミスマッチのない学部進学と将来設計を目指して、大学生活や将来を総合的に考えた上で、学部選択・留学・就職を考えられるような進路指導を目指します。学部との教育活動の連携や情報交換を密にし、本庄学院を卒業した現役早大生の協力も得ながら、学部説明会のあり方を工夫します。また、日本医科大学との連携により、医学の道を志すための指導の充実も図ります。

さらに、地域・企業との連携プロジェクト、環境保護活動、国際交流、各種コンテスト参加など多様なプログラムで、本庄学院教育の可能性を広げていきます。これらのことが、附属校生としてのアイデンティティの育成にもつながるものと考えています。

### (3) 研究関連 (Waseda Vision 150 核心戦略 7、9 関連)

－研究の国際展開のための戦略策定に向けた取り組み計画－

本学院の専任教員、非常勤講師等による研究論文や調査報告を掲載した「研究紀要」を刊行します。

### (4) 国際関連 (Waseda Vision 150 核心戦略 8 関連)

－派遣留学、留学受入促進に向けた環境整備への取り組み計画等－

1 年間留学をしても高校 3 年間で卒業できる第 2 種留学制度も活かし、本学院から海外に羽ばたく生徒の増加をめざします。本学院で受け入れる留学生については、個性を大事にしながら本庄学院生と一緒に育成していけるよう、留学中の教育プログラムをさらに充実させます。

本庄学院には、長い SSH・SGH 期間中に培われた経験と国内・海外校とのネットワークがあり、継承させてきた Mahidol Wittayanusorn School (タイ)、National Junior College (シンガポール)、Hana Academy Seoul (韓国) 等との相互訪問交流等については、コロナ禍で一旦オンライン化あるいは停止されたものを、順次対面にて再開することをめざします。

留学の受け入れ・留学派遣・対面での国際交流・NZ を含めた短期留学・国際コンテスト等については、基本的に

コロナ禍以前に戻しますが、コロナ禍中に培ったオンライン等のノウハウを活かし、より効果的かつ未来的なプログラムにし、次世代の国際交流活動のスタンダードを目指します。また、新たな交流先の開発を目指します。

(5) その他

－ (1) ～ (4) に該当しない、各学術院・学院・学校独自の戦略・プロジェクト等－

多様化・グローバル化の時代の中、本庄学院では教育リソースを学外にも求め、地域の特性を活かした、より効果的で高いレベルの教育を目指すとともに、地域への貢献・文化的交流の拠点ともなることをめざします。

以上